



2020年2月13日

各位

会社名 東海汽船株式会社
 代表者名 代表取締役社長 山崎潤一
 (コード番号 9173 東証第2部)
 問合せ先 取締役経理担当 横田清美
 (TEL 03-3436-1135)

2019年12月期通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2019年11月7日に公表いたしました2019年12月期(2019年1月1日～2019年12月31日)の通期業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績値との差異について

2019年12月期 通期連結業績予想と実績値との差異(2019年1月1日～2019年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 11,200	百万円 10	百万円 80	百万円 90	円 銭 41.00
実績値(B)	11,114	△73	3	24	11.35
増減額(B-A)	△85	△83	△76	△65	
増減率(%)	△0.8	—	△95.3	△72.3	
(参考)前期実績 (2018年12月期)	11,459	131	177	148	67.56

2019年12月期 通期個別業績予想と実績値との差異(2019年1月1日～2019年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 9,200	百万円 30	百万円 40	百万円 30	円 銭 13.67
実績値(B)	9,175	6	7	5	2.38
増減額(B-A)	△24	△23	△32	△24	
増減率(%)	△0.3	△79.9	△81.6	△82.6	
(参考)前期実績 (2018年12月期)	9,379	128	177	145	66.44

2. 差異が生じた理由

当社グループの営業基盤である伊豆諸島を直撃、通過した台風15号・19号は、各島の観光産業に甚大な被害をもたらしました。加えて、他の地域を含めた被災及びその後の復旧状況の報道などの影響を受けて、来島者の逸失は予想以上に長引きました。また、東京湾周遊のレストランシップは、クリスマス期間を含めた集客が低調に推移し、利用客数の回復には至りませんでした。さらに、第4四半期においては、原油価格の上昇により、費用面での船舶燃料費の増加もありました。この結果、売上高及び利益が前回発表の予想を下回りました。

以上